

# 地域コミュニティ活性化 研修会

～地域コミュニティの必要性～

令和元年7月29日

福岡県庁 粕屋合同庁舎

西塔大海

西塔企画

慶応義塾大学SFC研究所 上席研究員

## プロフィール

## 西塔大海

(さいとうもとみ)

## 西塔企画

慶應大学SFC研究所 上席研究員、さとのば大学 講師

九州・山口地域づくり人材ネット登録

元 福岡県上毛町地域おこし協力隊

1984年山形県中山町 生まれ。福岡県上毛町(こうげまち)在住。  
 東京大学大学院 新領域創成科学研究科修了(科学修士)

## 【3.11震災で起業】

大学院在学中の2011年に東日本大震災が発生し、震災直後から宮城県気仙沼市に入り大規模避難所の運営スタッフを経て、一般社団法人気仙沼復興協会を起業(事務局長)。同社は4年で400名以上を雇用して復興事業にあたる。

## 【地域おこし協力隊】2013年～2015年度

2013年に福岡県上毛町(こうげまち)へ移住。世帯数11軒の里山に暮らしながら、上毛町の移住交流施策「みらいのシカケ」の立案・実施を担当。古民家をDIYでリノベーションする実践型教育プログラム「上毛町デザインビルド」などのプロジェクトに関わる。

運営に携わった移住交流の窓口「上毛町田舎暮らし研究サロン」は、バスも電車もない山奥にあるにも関わらず、年間のべ1000人が移住相談や地域活性、地域ツーリズムの相談・視察・交流に訪れる場所となった。

任期終了後も、同じ集落に家族とともに暮らしている。



## 【現在は】

地域にまつわる”企画づくり”を仕事としています  
 企業の新規事業開発や地域連携事業のコーディネートを行うほか、全国の地方自治体の移住促進、関係人口、空き家活用、人材育成などのプロジェクト立ち上げなど多数。

特に、地域おこし協力隊の募集支援、活動支援、起業支援が得意です。

共著に『ソーシャルパワーの時代―「つながりのチカラ」が革新する企業と地域の価値共創(CSV)戦略』がある。

## 【講演・セミナー】

- ・2016年『地方創生フェス』に石破地方創生担当大臣(当時)らと登壇
- ・福岡県庁 地域おこし協力隊向け 及び 採用自治体職員向けセミナー他 茨城県、山口県、大分県、鹿児島県、山梨県、長崎県など多数の協力隊向け、職員向け講座

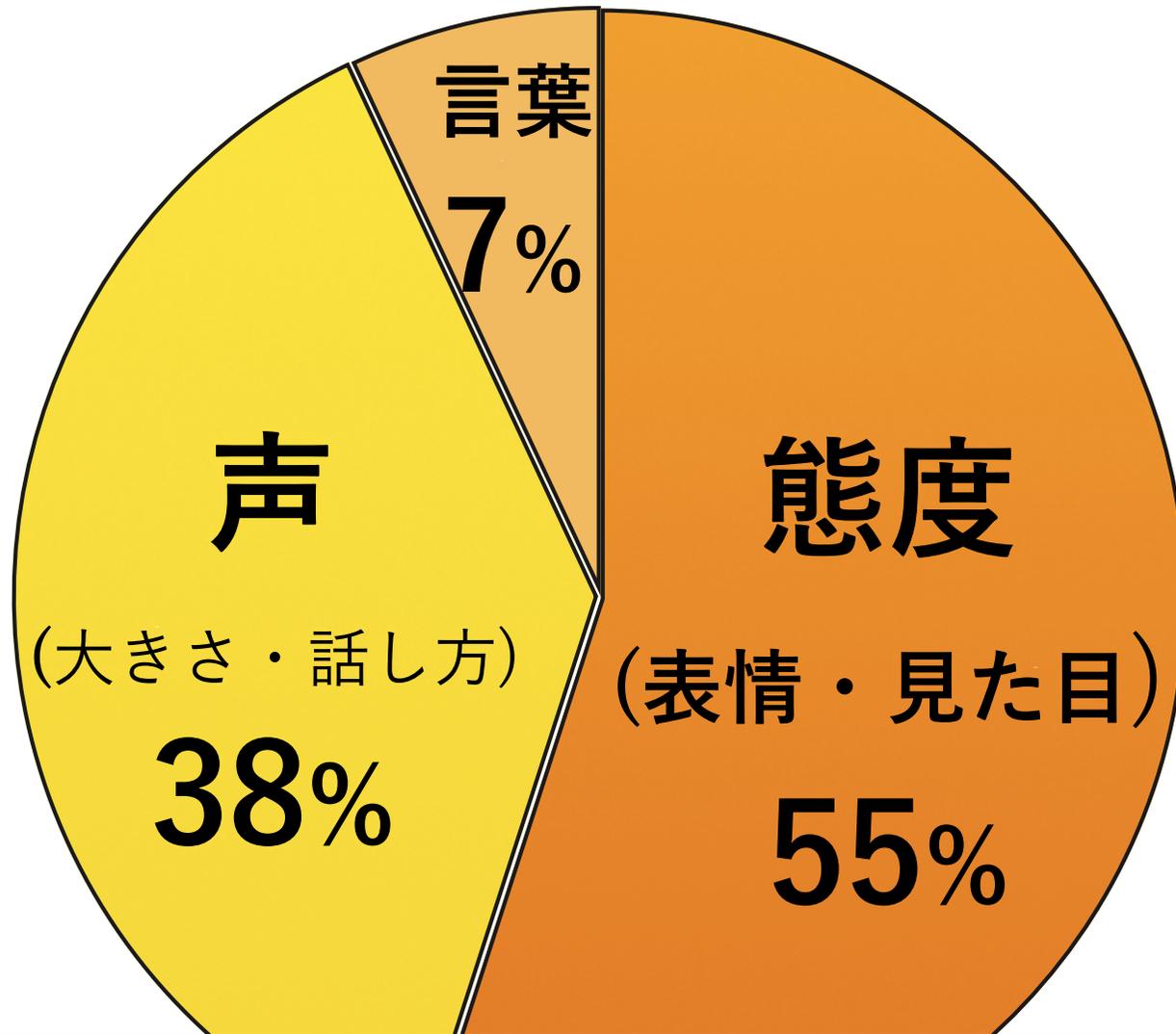
## 【受賞】

- ・2014年グッドデザイン賞(地域づくり)

## 【メディア掲載】

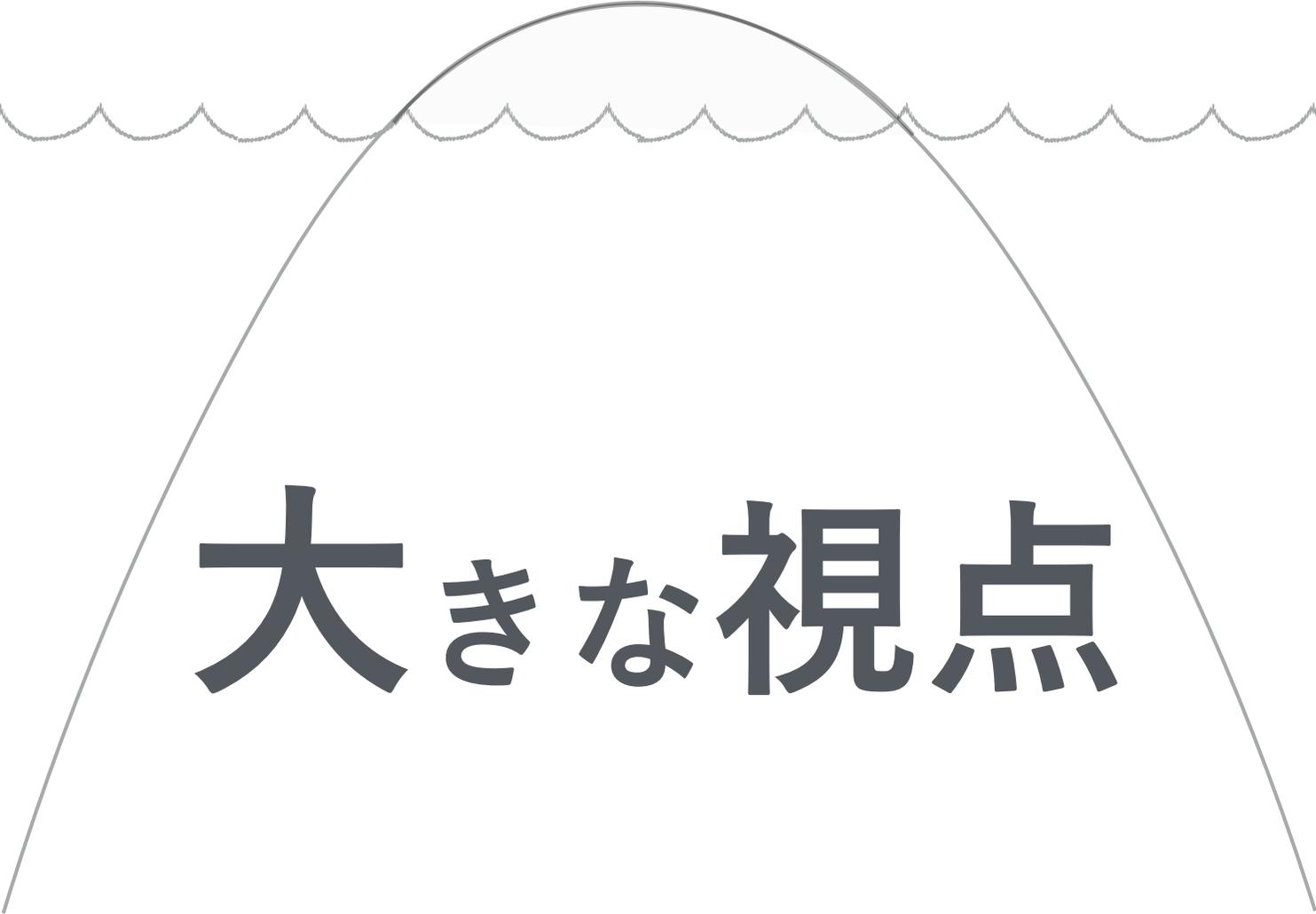
- ・『新建築』2014年9月号154頁
- ・『ソトコト』2016年6月号(表紙)
- ・「東大で物理学を研究していた西塔大海が、福岡・上毛町での暮らしを選んだ理由」 <https://smout.jp/articles/2>
- ・『地域おこし協力隊の”いい採用”とは?』 [https://greenz.jp/2018/10/17/saito\\_chiikiokoshi/](https://greenz.jp/2018/10/17/saito_chiikiokoshi/)

ご相談 [saitomotomi@gmail.com](mailto:saitomotomi@gmail.com) 又は FaceBookへお願いいたします。



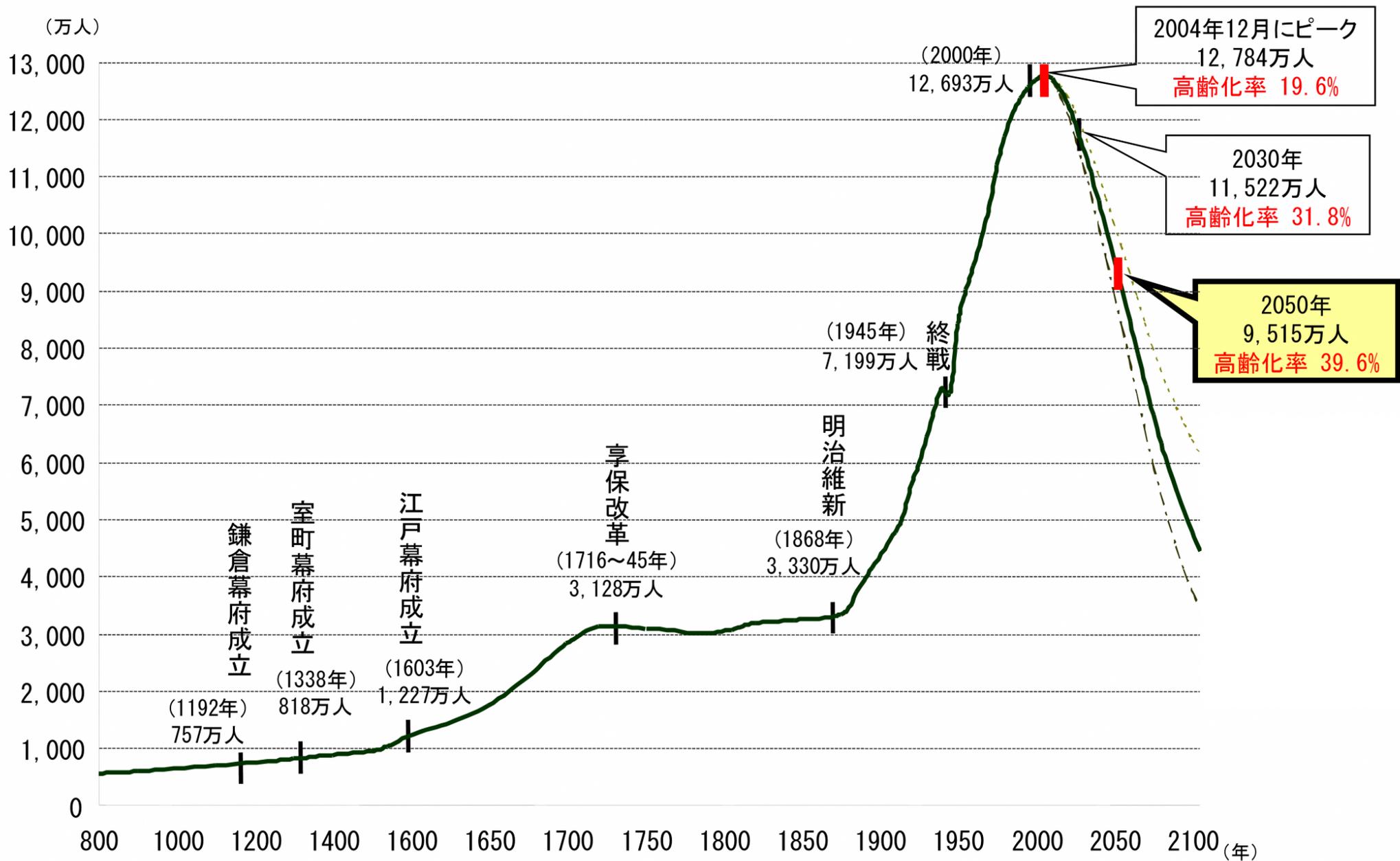
リアクションを大きめで！

# 小さな行動



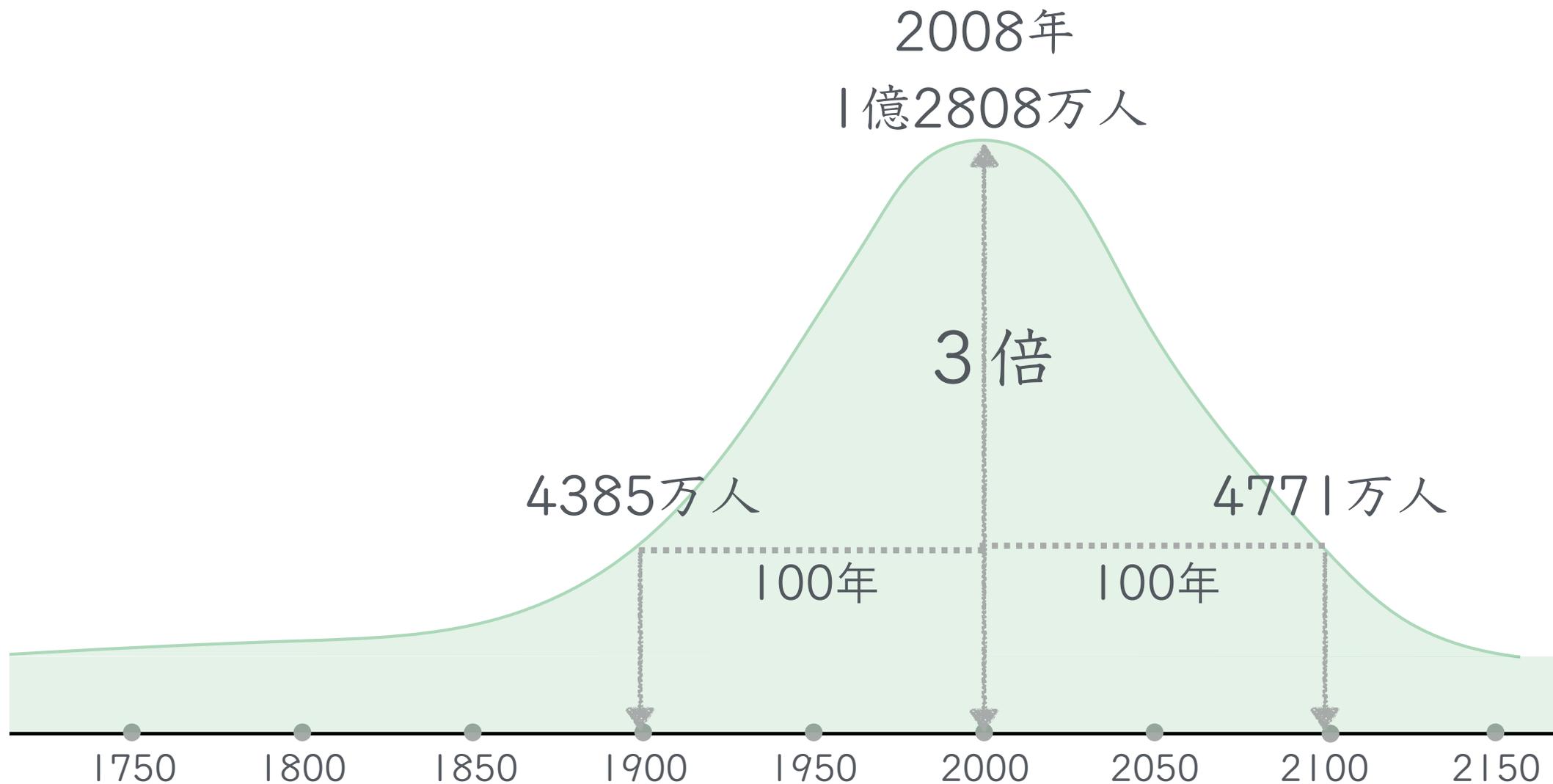
大きな視点

# 1000年単位でみる『日本の人口動向』



# 私たちの人生単位でみる人口動向

資料



20世紀に3倍に増えた人口が、21世紀に3分の1になる

2008年

2000年代

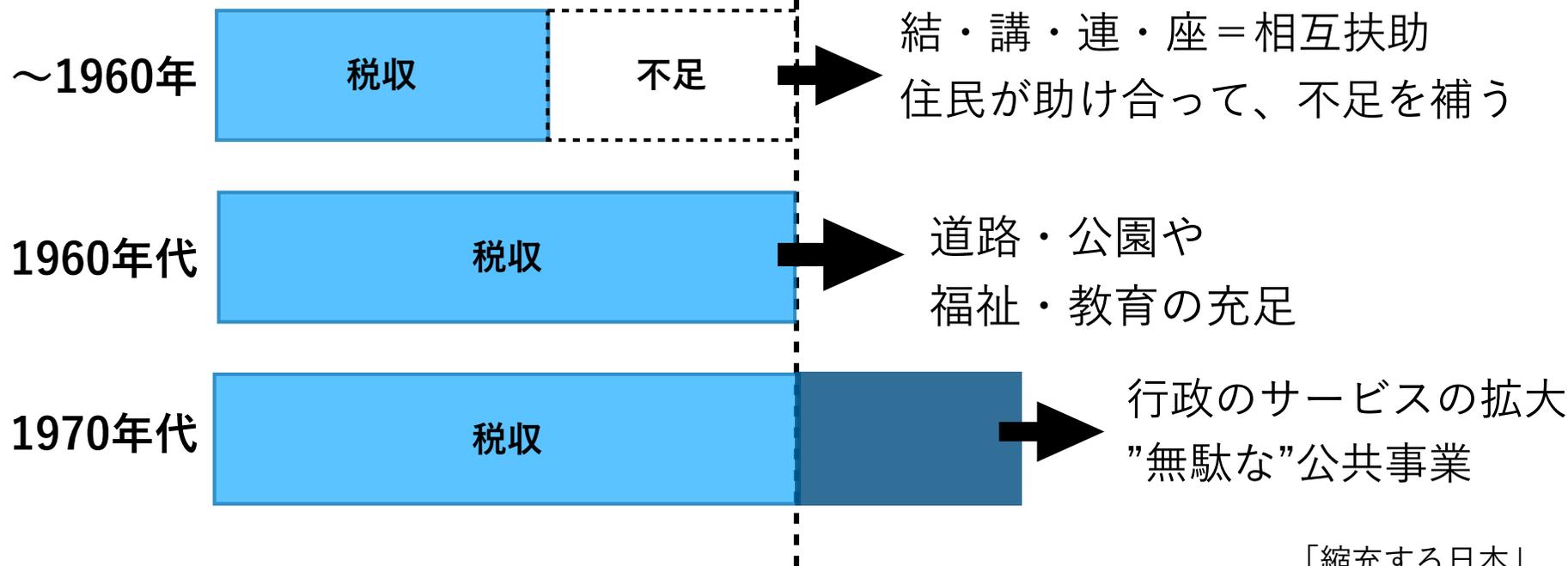
2020年代



誰も経験したことのない、急な坂道をくだることができることなら、そろり、そろりと、下っていきたいでも、そのための”正しい方法”は誰もわからない

## 最低限の 市民生活水準

出典：「縮充する日本」 山崎亮



「縮充する日本」 山崎亮

### 1960年代

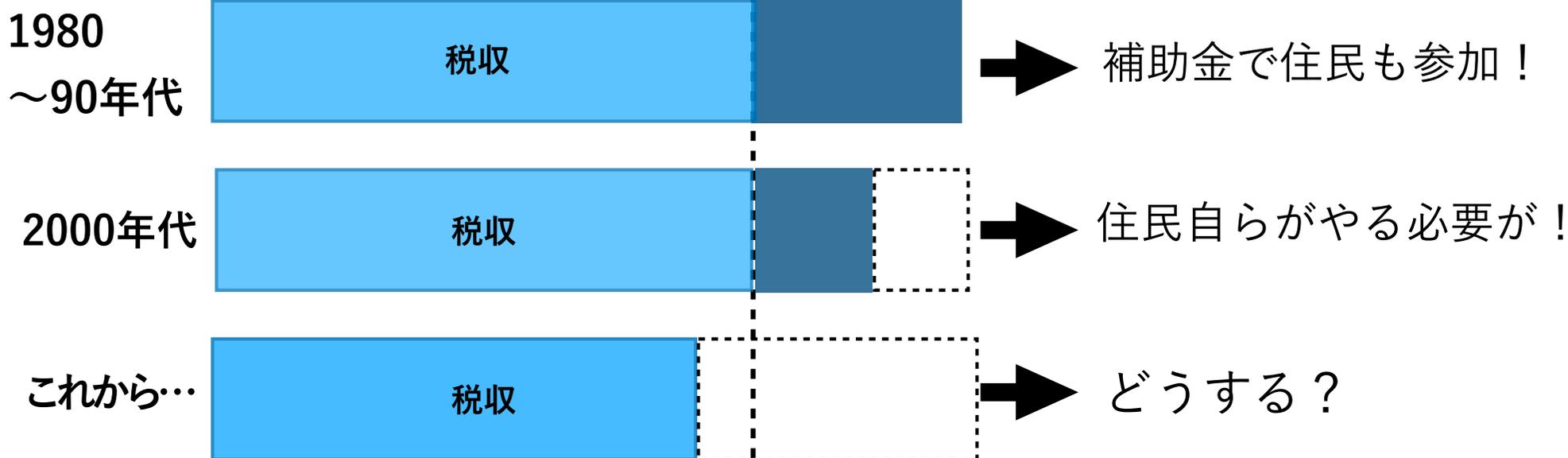
- ・ 経済白書が「もはや戦後ではない」
- ・ 経済が安定し始める
- ・ 道路と上下水道の整備が進む
- ・ 福祉や教育にも目が向けられる

### 1970年代

- ・ 経済成長が続く
- ・ 税金がシビックミニマルを上回る
- ・ 「増えた予算をどう使うか」の議論
- ・ 地域振興を目指し、美術館、博物館が急増

# 税金と行政サービスのイメージ(1980～現在)

## 最低限の 市民生活水準



### 1980年代

- ・ 89”消費税で増税
- ・ 税金が60兆円を超える
- ・ 「予算を”使い切る”にはどうすればいいの？」
- ・ 住民参加がスタート

### 1990年代

- ・ バブル経済崩壊
- ・ 景気対策カンフル剤＝公共工事を乱発
- ・ 自治体の補助金依存が強まる

### これから・・・

- ・ 扶養費(生活保護、高齢福祉、障害福祉)や医療福祉など義務的・経常的経費は増加一途
  - ・ 老朽化した公共施設のアセットマネジメントも負担
- しかし
- ・ 税金(歳入)の増える見込みなし

”人口が急激に減る”という  
誰も経験したことのない時代がきます  
今、その始まりにいます

『人口を減っていくなかでも、幸せに暮らす』  
そのために何をすべきなのか？

ひとつの答えが、地域コミュニティをつくること

人口激減社会へ向けた”備え”として  
地域コミュニティづくりが必要なのではないか

# 捕捉： 協働のための対話<ポイント>

## ”100%で聴く”スイッチを入れる

### ポイント① 邪魔しない

- \* 話し手の話を中断したり、かぶせたりしない。最後まで聴ききる
- \* 自分の話をしない「私としては…」 「私なら…」 は後回し
- \* 相手の話したいことを話してもらう。自分の都合では質問しない。

### ポイント② 判断しない

- \* 「正しい/間違っている」「賛成か/反対か」という”私の意見”は脇に置く。考えだすと、100%で聴いていない状態になる。
- \* 「○○さんはそう思ったんだ」という事実だけを受け取る  
(同感は必要ない。共感の姿勢でのぞむ。)

- 相手は、聴いてもらうことで信頼感が高まり、関係性が回復し始める
- 自分の意見、役場の立場を表明するのは、関係性が回復した後！